

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2011年2月4日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.189]

衆院予算委員会でJR革マル問題がまたも徹底追及される！

自民党の柴山昌彦議員（北関東比例）は、2月1日、衆議院予算委員会において、JR総連・東労組への革マル派の浸透、JR東労組と枝野幸男官房長官との関係などについて、浦和電車区事件の加害者である元JR東労組大宮支部委員長のY氏（梁次邦夫氏）や、故・松崎明氏の側近であったJR総連組織内の田城郁参議院議員の問題などに詳細に触れながら、枝野長官や菅直人総理大臣に対して厳しく質問し、見解を質した。NHKテレビが全国に生中継する中、JR総連への革マル派浸透問題が、全閣僚が出席する衆議院予算委員会で取り上げられるのは、昨年8月3日、11月8日に自民党の平沢勝栄議員が質問したのについて3回目である。今回、さらに踏み込んだ質疑がなされたことで、社会的注目がいっそう高まることとなった。

（柴山議員）ご覧ください、ここにある質問主意書。わが党の佐藤勉衆議院議員が、昨年の4月27日に提出し、それに対する答弁書が閣議決定の上、5月11日に送付されてきたものです。枝野長官、昨年の5月11日当時、長官は行政刷新担当大臣として内閣におられました。間違いありませんか。（枝野官房長官）内閣府特命担当大臣、行政刷新担当として内閣におりました。（柴山）この質問主意書は、JRの労働組合に、日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派、すなわち「革マル派」が影響力を持っているか、ということについてのものでした。このように書かれています。革マル派は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、これまでも殺人事件等、多数の刑事事件を惹き起こしている。革マル派は、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して、基幹産業の労働組合等、各界各層への浸透を図っており、JR総連及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している。今後も革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる。こちらのパネルをご覧ください。これは、枝野長官の政治団体が、平成8年以降今の答弁書にあったJR総連及びJR東労組からいくら献金を受け取ってきたかを示すものです。一昨年の衆議院選挙の年まで、一時中断の時期もありますが、継続的に合計794万円にのぼるお金を貰っていたこととなります。枝野長官、あなたが閣議決定に署名した答弁書で問題が指摘されたJR総連・JR東労組からこれだけの献金を受け取ることは道義的に問題があると思われませんか。また、今後も献金を受け取るおつもりがおりませんか。簡潔にお答えください。（枝野）私は連合加盟の各産別といろいろな意味でお付き合いをさせていただいておりますが、その連合加盟の各産別とお付き合いをする範囲内で当該労働組合ともお付き合いをさせていただいてまいりましたが、それ以上でもそれ以下でもございません。今後については、「李下に冠を正さず」ということもございますので、献金等のお申し出があってもお断りさせていただきます。ありがとうございます。

枝野官房長官はJR東労組に事実上の「絶縁宣言」！

このように、枝野長官はJR東労組から政治献金等の申し出があっても断ると明言し、事実上の「絶縁宣言」を行った。文脈からみて、「等」とは、政治献金以外にも、集会参加など一切の関係を断るという意味だと考えられる。内閣の要にある枝野官房長官がJR総連・東労組からの政治献金を拒否することを明言したことで、これがすべての民主党国会議員にも波及するのは必至だ。JR総連は決定的な孤立に追い込まれることになる。